

# 令和元年度 施設関係者評価

社会福祉法人 博乃会

認定こども園 日吉台保育園

# 令和元年度 自己評価の評価項目の設定

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台保育園

## 1、本園の教育・保育目標

## 2、来年度、重点的に取り組む目標・計画

## 3、評価項目

- ・本園の教育・保育課程の編成・実施に関して、職員間の共通理解を図る。
- ・認定こども園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。
- ・教育・保育の質の向上のために、園内外研修を充実させる。
- ・保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。
- ・職員の指導能力向上を図る。
- ・権限委譲と人材の育成を図る。
- ・園児に接する時の基本姿勢を周知徹底する。
- ・食育に関する実践を充実させる。
- ・本園の情報を発信する。

## 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

## 5、今後取り組むべき課題

- ・安全管理の更なる向上
- ・自然災害時の危機管理体制の確立
- ・保護者への情報提供とより正確な要望把握の向上

# 令和元年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台保育園

## 1、本園の教育・保育目標及び地域貢献について

保育と教育の両方が合わさった考え方が定着し、「知育・体育・徳育」の三本の柱を基に「頭の良い子に」「心の豊かな子に」「意欲溢れる子に」バランス良く成長出来るよう、様々なカリキュラムを取り入れ、子ども自身が得意な事を見付け成長出来るように援助してきた。

去年は、地震や台風などの天災が続き、今年度は、5月に起こった大津の交通事故や7月には、京都アニメーション放火殺人事件など、人災が多くあり、非常災害対策計画や危険発生時対処要領、散歩計画など、園内、園外で子どもの安全が確保出来る事を中心に取り組んできた。

今後も大切な子どもたちにとって安心安全を第一に過ごして行けるように日々、対策を保育園全体で考えていく。

卒園式(3月14日)では、中止も考えたが、最後を締めくくる行事でもある為、感染症対策(コロナウィルス対策)として、時短と環境(最大限家族間の距離を広げる)を全職員で考え準備し、年長児(ライオン組)28人を無事卒園させることが出来た。

今回の対策を生かし、どのような状況にあっても子どもを第一に考え遂行出来るように職員で環境構成を整えていく。

また、4月から高槻市立日吉台幼稚園の移管をするが、次年度は、幼稚園が行ってきた保育を継承しつつ、博乃会にとって、多様なニーズにあった保育に努め、日吉台地域の教育・保育を担っていけるようにする。

## 2、来年度、重点的に取り組む目標・計画

認定こども園日吉台保育園は、「音楽」・「ダンス」・「絵画」「体育・サッカー・スイミング」・「机上課題のワークブック、製作」等の教養活動に目標を持って取り組んでいる。保育教諭も体育指導員や音楽教諭と計画的に日々の教育、保育の実践に意識が高まっている。来年度も子どもたちが様々な活動を通じて、豊かな経験を積む事が出来るようにしていく。

4月より高槻市立日吉台幼稚園を認定こども園日吉台幼稚園として移管し、運営していくこととなる為、南平台保育園、高浜学園と例年通り、4ヶ園で定期的に管理職会議、クラス別会議等を実施し、情報交換をして、今年度も「知育・体育・徳育」の3本の柱を基に頭の良い子に、心豊かな子に、子どもたちが成長出来るように保育を行っていく。

また、就学先の小学校との連携も十分に図り、就学後も子どもたちの成長を継続して見ていけるようにしていく。

職員には働き改革の充実を図り、ゆとりと優しさを持って保育が出来るよう精神的・肉体的にも全力で注ぐことが出来る職場作りを行っていく。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況
本園の教育・保育課程の編成・実施に関して、職員間の共通理解を図る。	教育・保育要領の理解を全職員で、積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について月1回の管理職会議・合同職員会議・職員全体会議及び年3回の乳児・幼児会議で話し合いを行っている。
認定こども園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	認定こども園に求められる社会的なニーズも変化してきている。こうした背景を踏まえて、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討をしている。
教育・保育の質の向上のために、園内外研修を充実させる。	<p>研修計画を立て、定期的実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■保育内容研修（立案、文章表現）</li> <li>■新人接遇研修</li> <li>■心肺蘇生法、SIDS研修</li> <li>■音楽研修（お遊戯、リトミック、鼓笛隊、カラーガード、合奏、民族芸能和太鼓等）</li> <li>■栄養士研修</li> <li>■造形研修</li> <li>■人権研修</li> </ul>
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	保護者参加の行事や年4回の参観日、年2回の個人懇談会を実施したり、年長児の保護者にアンケートを実施している。出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組んでいる。
職員の指導能力向上を図る。	<p>各種研修会に参加し、学んだことを全職員で共有することで、専門分野への知識の向上に努めている。</p> <p>年間を通じて専門の先生に指導を受けることで技術向上を図っている。</p> <p>毎日のミーティングで日々の子どもの姿、又は保護者からの意見・要望について、報告・連絡・相談の場を設けて情報を全員が共有する環境を作っている。</p>
権限委譲と人材の育成を図る。	<p>各分野別のマニュアルを実践することで、基本的な仕組みや流れを知り、そこから自分で考え工夫するシステムを採用している。</p> <p>その中で適材適所に合わせて各人の得意分野を引き出し、存在意義・責任感を持つようにしている。</p>
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底する。	特に、言葉遣いの適正を意識し、親切かつ丁寧な接し方を再確認の上、実践するように努めている。一人一人の子どもの長所を認め、職員が公平かつ客観的に園児を見る目を養うように努めている。

食育に関する実践を充実させる。	旬の食材を生かし、年中行事に応じた季節を感じる事が出来るよう献立を工夫している。 家庭に対し、献立のみではなく健康や栄養情報の知識や食事作りのアドバイスを実施し連携を取っている。
本園の情報を発信する。	本園の教育方針や取り組み状況を園だより・クラスだよりや掲示、その他のプリントで情報発信している。

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全職員の研修等で意見交換のできる場を設け、その課題について職員全員で理解をし、取組状況を話し合う事で、本園としての方針を明確にすることが出来、それを実践する礎とすることが出来た。

職員各自が教育の資質向上に取り組む、時には主任の指導を受けながら、それぞれの得意分野で充実した保育が出来ていた。

専門の先生に指導を受ける事で担任の指導に幅が出来てきた。又、子ども達の教育・保育に取り組む姿勢や発言、行動力から意欲的に取り組んでいる様子がうかがえた。

#### 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理の向上	危機管理研修を行い、想定できる危険に対して万全の体制をとれるように準備をしている。 遊具の点検及び園舎・園庭などに危険な箇所がないか日ごろから管理に努めている。(毎日、点検記録をつけて管理していく) 消防署の立会い避難訓練を実施して、指導も受けながら避難訓練の内容充実を図る。
自然災害時の危機管理体制の構築	非常時の危機管理について、子どもの引き渡し方法を含めたマニュアルを定期的に職員間で確認を行う。
保護者への情報提供とより正確な要望把握	保護者との個人懇談会を通して一層の情報収集を充実していくとともに、行事等についても意見聴取をする。 出された意見に対しては十分検討し、必要なものについては本園の考え方を示し説明を加えて理解を得られるよう最大の努力を重ねる。改善すべきところは、的確かつ迅速に改善する。 当園の教育方針に則しつつも、子育て中の保護者が期待するところを把握し、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。

## 1. 学校関係者の評価

令和元年度も全職員が学年ごとに教育・保育案を計画し実践している。子ども一人一人の成長を見極め、反省、改善を加えて見直しを繰り返している。常により良い環境を整え、子どもたちに多くの経験の場を与えられるように努力しているところは、毎年ではあるが賛同出来る。

また、感染症対策(コロナウィルス対策)や環境状況に応じて健康管理を考え、子どもへの視診等にも十分に気を付けて取り組んでいる。

尚、専門分野における知識不足や経験不足が感じられる場合、個別に学習すると同時に他の職員ともミーティングの場で意見交換して補足をしている。

放課後児童健全育成事業、放課後児童クラブ『日吉台アフタースクール』を自主事業で運営されているが、地域の方にも認識されてきている。

以上のように各領域において向上心を持ち、熱心に研修に取り組む姿勢が認められるので、特に指摘する事項はない。